

2025年6月20日

報道機関 各位

長崎大学 クラウドファンディング プロジェクト 「被爆 80 年、被爆の記憶を未来へ。 長崎大学の貴重な歴史資料を守りたい」

長崎大学は、被爆の記憶を伝える貴重な歴史資料を保存し、未来へと継承していくため、以下のとおりクラウドファンディングを実施します。



・タイトル「被爆 80 年、被爆の記憶を未来へ。長崎大学の貴重な歴史資料を守りたい」

・URL : https://readyfor.jp/projects/nagasaki-u_Abomb80

※当該 HP は 6/24 (火) 9 時にオープンします

・目標金額 : 800 万円

・募集期間 : 2025 年 6 月 24 日(火)9 時~8 月 22 日(金)23 時 59 日間

・資金使途 : 被爆の歴史を伝える各資料の専門的な修復や保存・展示・説明整備などに必要な費用

・クラウドファンディングプラットフォーム : READYFOR



長崎大学には、被爆当時の苦難と希望を伝える歴史資料が存在します。血染めの白衣、紙製人体模型(キュンストレーキ)、被爆門柱など、「声なき証言者」たちは平和を語り継ぐ上で不可欠ですが、経年劣化により次世代への継承が難しい危機的状態です。被爆 80 年を機に、このままでは失われかねない記憶を未来へ繋ぐため、これらの資料の保護が急務です。ぜひ貴媒体で取り上げていただき、支援の輪の拡大にご協力願います。

※注意・お願い※

本クラウドファンディングのHPの公開は6月24日(火)9時となっておりますので、報道は当該時間後にしていただくか、HP公開前に報道いただく場合には、記事等の中で「6月24日(火)9時より、～」と明確に記載いただくようお願い申し上げます。

【対象となる貴重資料】

1. キュンストレーキ（紙製人体解剖模型）

1860年にフランスから輸入された日本最古の紙製人体模型で、西洋医学教育の黎明期を象徴する資料です。原爆投下時には奇跡的に焼失を免れましたが、現在は損傷が激しく、内部にガラス片が残存している可能性も指摘されています。詳細な調査と修復を行い、永続的な保存を図ります。



2. 血染めの白衣

被爆当時、長崎医科大学の学生であった西森一正氏が着用していた白衣で、自身も重傷を負いながら救護活動に従事した際の血痕が残されています。現在、カビの発生や生地劣化が進行しており、専門的な修復と保存処置が必要です。

3. 旧長崎医科大学被爆門柱

原爆の爆風で倒壊し、長らく土中に埋もれていた旧通用門が、法面工事中に発見されました。被爆遺構としての価値が認められましたが、破損と劣化が著しく、修復と保存が急務です。

既に被爆遺構として認定されていた「傾いた門柱」と合わせて、修学旅行などで訪れる小中学生の平和学習の場として活用が期待されます。



【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学ディベロップメントオフィス クラウドファンディング担当

電話番号：095-819-2155

E-mail：nukikin@ml.nagasaki-u.ac.jp

〒852-8521 長崎市文教町 1-14